無形の文化財を伝える①

仏像や貝塚のように、そこにあることで価値が保たれている文化財のほかに、人によって担われ、人から人へと技や身振りを伝えることで受け継がれる文化財があります。獅子舞や踊り、さまざまな音曲、行事。あるいは優れた工芸品を創り上げる技。

形ある文化財は、火災や自然災害、あるいは保存状態によって存続の危機を迎えますが、人から人へと伝えられる文化財は、担い手やそれを受け継ぐ人がいなくなると、深刻な危機に見舞われることになります。

そして今。コロナ禍の中で、人と人の接触を避けなければならない状況の長期化によって、長い歳月、地域の中で受け継がれてきた無形の文化財の継承は、深刻な存続の危機に見舞われています。

技を伝える保存会のみなさんは、不安と焦燥の中で、地域の伝統を伝える努力を積み重ねています。

今回は、令和３年７月に行われた「秋葉ささら獅子舞保存会」のみなさんの取組を紹介します。

さいたま市指定無形民俗文化財

秋葉ささら獅子舞　　さいたま市西区中釘

室町時代末期から伝わるという獅子舞です。五穀豊穣、悪疫退散、厄除けを祈願して、大獅子、中獅子、牝獅子の３頭の獅子が笛やささらの音にあわせて勇壮華麗に舞います。天狗やひょっとこ、それにささらを奏でる花笠なども大事な役回りです。

令和３年・夏・秋葉ささら獅子舞　～コロナ禍にまけずに伝承するために～

令和２年、多くの行事と同じく、毎年７月に行われる「秋葉ささら獅子舞」も中止となりました。コロナ禍は終息の兆しが見えず、練習さえもままならない状況となりました。

年が改まっても、コロナ禍は依然として猛威をふるっており、令和３年も正式の披露は中止せざるを得ませんでしたが、感染症対策を万全に講じた上で、継承を途絶えさせない取組が、手探りで始まりました。

通常とは大きく形をかえて、例年ささら獅子舞を執り行う秋葉神社（西区中釘）と秋葉三尺坊（同）の２か所で、７月１７日（土）に執り行われました。三頭の獅子頭やひょっとこなどの面は台上に並べ、笛方とささらの演奏にあわせて、獅子方３名が太鼓を敲きました。獅子方は時おり、獅子舞の所作を行いました。みなさん、普段と勝手が違って、戸惑いながらも、継続に向けた確かな手ごたえを感じていたようです。

心強いのは、指扇北小学校の４名のみなさんが「ささらっ子」で参加してくれたこと。花笠と装束は例式どおり。初々しさと華やかさをふりまきながら、ささらを鳴らしてくれました。

獅子頭・面を並べ、その前で獅子方が太鼓を演奏

花笠をかぶった「ささらっ子」がささらを奏でる

秋葉三尺坊にて

文化財の価値や魅力を大勢の方に伝えることも大事なこと。市の広報課の職員が演奏の様子を取材しました。「駒形の祭ばやし」のみなさんの取組とあわせ『楽楽楽（らららら）さいたま』第１９号で紹介されています。